
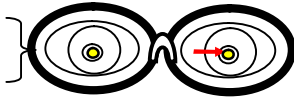

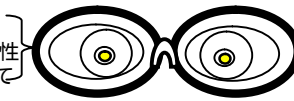

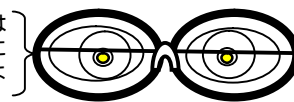


眼鏡装用による内斜視のまとめ

例) 左眼内斜視

視能学では 15 となっている

非調節性内斜視(基礎型など)	屈折性調節性内斜視(von Noorden)
<p>殆ど変化なし</p> 	<p>10 以上減少 角反中央</p> 
<p>上の偏位のまま (固視目標を見る 為の輻輳はある)</p> 	<p>角反中央 * 調節性、融像性 輻湊 etc によって</p> 
<p>上の偏位のまま (固視目標を見る 為の輻輳はある)</p> 	<p>角反中央 * 調節性輻湊は ないので、主に 融像性輻湊によ って</p> 

遠見 正視状態
完全矯正レンズ装用

近見 +3D 調節
完全矯正レンズ装用

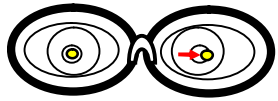
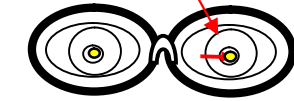

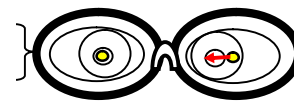


近見 近見で無調節
+3.0D 付加レンズ装用



近見は輻輳するので(輻輳角分)遠見より見かけ上、内斜してプリズム量が増加すると勘違いする人がいるが、近見の視標を見ている視線からの偏位となるので、偏位量は変わらず APCT の量としては理論上変化はない。



高 AC/A 比ならば、遠視があって内斜視となっていた分は完全矯正レンズで解消するはず

部分調節性内斜視(主流)	非屈折性調節性内斜視(von Noorden)
<p>10 以上減少 10 以上残存</p> 	<p>角反中央</p> 
<p>上の偏位のまま * 高 AC/A 比の 場合は上記より 10 以上増加</p> 	<p>上記より 10 以上増加</p> 
<p>上の偏位のまま * 高 AC/A 比は 近見増加分減少</p> 	<p>角反中央</p> 

遠見 完全矯正レンズ装用

近見 +3D 調節
完全矯正レンズ装用

近見 近見で無調節
+3.0D 付加レンズ装用

定義が曖昧なもの



この要素がないと調節因子ではない。例) 15 で眼鏡にて 9 になった場合は調節性とは言えない。

見解が一致していない




von Noorden・欧米の成書	屈折性調節性又は準正位又は微小斜視
日本	屈折性調節性? 部分調節性?

欧米は大まか

遠見 完全矯正レンズ装用

近見 +3D 調節
完全矯正レンズ装用

近見 近見で無調節
+3.0D 付加レンズ装用

10 以上減少 10 以内残存	
上の偏位のまま	
上の偏位のまま	



近見の所見から少なくとも高 AC/A 比ではないので、非屈折性調節性内斜視ではない。